

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川・松岡)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
 (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
 (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
 (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
 (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 … 378人

グループ数 25グループ

(2021年9月30日現在)

1. 事務局からのお知らせ

秋の音が聞こえる美しい季節が到来しましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

9月以降、新型コロナウイルス感染症の状況にも変化が見られ、10月以降は徐々にですが、はしかけ活動を再開して頂けると考えております。ただ、引き続き感染症への対策は怠らないようご注意ください。

さて、事務局より以下3点の連絡がございます。

■新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う「はしかけ」の再開について

「コロナとのつきあい方滋賀プラン」のステージ判断基準において、ステージⅢに相当する期間は次の条件に注意して活動を再開してください。

屋内活動: 特定少数の会員のみの活動は可。飲食は厳禁

屋外活動: 特定少数の会員のみの活動は可。飲食は非対面なら可。

※活動の実施にあたってはメンバーや担当学芸員でよく話し合って決定して下さい。

■琵琶湖博物館開館25周年記念シンポジウム「琵琶湖博物館との新しいつきあい方」のご案内

琵琶湖博物館は今年25周年を迎えるにあたり、今後、地域の人びとともに学びあえる博物館になるための、新たな博物館とのつきあい方やその仕組みを考えるシンポジウムを開催します。地域の人びとともに成長していく博物館に興味がある方はぜひご参加ください。博物館と繋がっている方々にもお知らせいただけると幸いです。

1.日時: 令和3年10月23日(土)13:00~16:00

2.方法: オンライン開催(Zoom ウェビナーでの開催)

3.参加費: 無料

4.申込方法: しがネット受付サービスよりお申し込みください。

※しがネット受付サービス https://s-kantan.jp/pref-shiga-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=10455

プログラム等詳細は琵琶湖博物館のwebサイトでご確認下さい。

■びわ博フェスについて

本年度のびわ博フェスは中止です。

楽しみにして下さっていた方には大変申し訳ございませんが、このような社会情勢のおり、何卒ご了承をお願い致します。

■企画展「湖国の食事(くいじ)」について

企画展「湖国の食事(くいじ)」が開催中です。郷土料理の展示や、湖国の食に関する知恵や工夫について解説しています。期間は11月21日(日)までです。ぜひご来館ください。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

8月、9月とも活動は中止となりました。

【活動予定】

今回は10月17日を予定しています。現地集し、集地周辺を徒歩で分散して調査します。詳細はメールにてお知らせします。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

新型コロナウイルスのさらなる感染拡大の影響で再び活動を休止しています。

【活動予定】

蓄積データの編集などの作業を中心にして今後の活動計画を見直す。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■ 8月15日(日) 参加者0名

水族展示室及びオープンラボにてスケッチの予定でしたが、コロナ禍の自粛のため中止。

■ 9月19日(日) 参加者0名

花緑公園(野洲市)にてスケッチの予定でしたが、コロナ禍の自粛のため中止。

【活動予定】

■ 10月17日(日)

曽根沼(彦根市)にてスケッチおよび散策等。水鳥の観察もできます。

■ 11月21日(日)

坂本(大津市)にて街並のスケッチおよび散策等。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本道範

【活動報告】

■ 7月28日(水) 参加者:4名

糸ボタンの製作、地機の機織り、綿の糸紡ぎなど。8月は例年通りお休みです。

■ 9月4日(土) 活動中止

■ 9月29日(水) 活動中止

【活動予定】

■織姫の会

10月9日(土)、27日(水)、11月10日(水)、27日(土)、12月11日(土)

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口 保文

【活動報告】

■2021年7月の活動

○屋内勉強会: 地学基礎の教科書を使った勉強会 第5回(参加者:7人)

日時:2021年7月25日(日)13:30~15:30

場所:琵琶湖博物館 実習室1

1. 概要:①梅澤の専門用語の報告。②北野さんの最近行った北八ヶ岳や黒曜石の話。③梅澤の盛越川・三田川の調査状況の報告。④中野さんからは博物館発行の中野さんと里口さん編集の研究調査報告の案内があった。博物館のインターネットページに掲載されています。是非、ご覧下さい。https://www.biwahaku.jp/research/publication/investigation/。⑤8月の勉強会は報告希望者なしにつき実施しないことに決めました。実施中は、窓を開けて外気を取り入れ、終了後は机などの拭き掃除を実施した。

2. 梅澤報告のポイント

専門語の奥の深さ、面白さ、英語との比較、むずかしさを、下記の事例で報告した。①遺跡、②化石、③カタカナ英語の専門語 a. マグマと溶岩(lava), b. バソリス、④連想プレートとスラブ。専門用語の使用で大切なことは、何か疑問が生じたら専門の辞典を使い、調べる。それもできるだけ新しい辞典を使うこと。古い辞典であると現在の知識と異なることもある。博物館の図書には岩石に関する日本語・英語の専門辞典ともある。私・梅澤は今回、専門語も含め、使用している教科書を少し読み込んでみた。実に面白いですから是非、試してください。

3. 交流

①北野さんから、最近行った北八ヶ岳の岩石などについてのお話があった。皆さんも実によく知っており、快適な高原と、その後ろに見える北アルプスをイメージしながら色々話は広がり面白かった。

②梅澤から、盛越川は源流域で花崗斑岩岩脈を切っている。そこには花崗斑岩のみならずフェルサイト、流動分化によると推定される層状の花崗斑岩がある。岩脈は火口に比べると狭いものであるが、狭い範囲に火成岩の多くの局面も見え、面白い。

③田中さんから服部川の化石が出る場所の調査の希望有。田中さん主体に調査計画の立案をお願いする。

■2021年8月の活動

1. 行事なし。

2. 梅澤が野外の先行調査として相模川の源流域を調査し、角礫岩岩脈の捕獲石として細粒花崗岩があることを確認した。

3. 相模川の源流域の角礫岩岩脈について梅澤らが学術雑誌に投稿し、査読後の対応に注力中。

■2021年9月の活動

9月11日に湖国もぐらの会の福井さんに滋賀県の鉾山跡についてお話をさせていただき予定でした(担当:村上)が、緊急事態宣言発令中のため中止とした。

■今後の予定

これまで中止・延期した活動計画について、再立案中。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾 滋史

【活動報告】

■8月8日(日) おでかけ撮影会 in 醒ヶ井・柏原

旧中山道の宿場町などを巡る撮影をする予定でしたが、残念ながら雨予報のため、中止となりました。

■9月12日(日) おでかけ撮影会 in 彦根

彦根城を中心として、大橋コレクションの撮影地巡りをする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となりました。

■メンバー大橋洋さんに滋賀県知事から感謝状が贈呈されました！

温故写新の活動の一つとして取り組んできた映像資料大橋コレクション活用のための整理作業が終わり、データベースの公開ができるタイミングに併せて、これまで博物館で管理していた大橋宇三郎さんが撮影してこられた写真と、このグループのメンバーである大橋洋さんが撮影された写真約7万点が博物館に寄贈されました。そして、8月24日に、県庁で大橋さんに対して感謝状の贈呈が行なわれました。当日の大橋さんの挨拶、そして贈呈式に参加された副知事からの御礼などにも、温故写新の名前がたびたび上がっており、多くの温故写新メンバーの活動の賜物でもあることも広く伝わったのではないかと思います。大橋さんをはじめ、温故写新メンバーの皆さんの長年のご尽力により、大橋コレクションが博物館の資料として活躍するスタートをきることができました。ご協力いただいたメンバーの皆様、本当にありがとうございました。

大橋コレクションの一部はすでに琵琶湖博物館ホームページにある資料検索「画像データベース」内で公開されていますのでぜひご覧ください。

【活動予定】

■10月17日(日) おでかけ撮影会 in 醒ヶ井・柏原 10:30 JR 醒ヶ井駅改札口集合

■11月13日(土) おでかけ撮影会 in 鳥居本 10:00 JR彦根駅改札口集合



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) —名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保美香

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-hakutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動延期】

滋賀県が新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置の対象地域となったため、予定していた以下の活動について、延期することになりました。

①多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

日時: 8月9日(月) 13:00~15:30 場所: 琵琶湖博物館 実習室1

②はしかけ「ほねほねくらぶ」さんとの合同勉強会

日時: 8月21日(土) 13:00~15:30 場所: 琵琶湖博物館 実習室2

【活動予定】

未定ですが、活動可能な状況になれば、随時、活動を再開していきたいと思っています。



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■9月9日(水) 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(ディスカバでのイベントとしては中止)

昨今の情勢に配慮し、ディスカバでのイベントとしては中止としました。

館内職員によるアロマウォーター抽出作業はしました。

【活動予定】

■10月上旬 森の宝物を探そう！(展示は10月～3月)

昨今の情勢次第で変更の可能性があります。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に田畑・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょ！

また、ザ！ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp

グループ担当職員: 美濃部諭子

【活動報告】

■8月21日(土) そうめん流し

コロナ禍により中止

■9月11日(土) ハンモック虫干し・道具整備

コロナ禍により中止

【活動予定】

■10月2日(土) 秋の里山体験教室 下見

■10月10日(日) 秋の里山体験教室 本番

■11月6日(土) ハチの巣箱づくり



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

新型コロナウイルスが猛威をふるい、緊急事態宣言が出されました。県や市町によって差はあるようですが、用心すべき時です。

ツルボ、センニンソウ、アキノノゲシが満開となり、よそのお庭ではオミナエシも咲いていて季節が秋に移ってきたことを感じます。そんな花々を皆で観ることも出来ず、毎年芦谷さんにお世話になって9月に行ってきた「水草観察」も、今年は中止。クロモもヒシも花がさいているだろうなあ、ネジレモのクルクルと立ち上がった花茎もまた見たいなあ、などと思いながら過ごしています。

【活動報告】

- 8月 新型コロナウイルスの感染防止のため中止 参加者 0名
9月 水草観察④ 長浜市方面 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言のため中止 参加者 0名

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定（しばらくは、密を避けるため、行いません）です。このニュースレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- 10月 以降 未定 博物館周り、樹幹トレイルの観察（新型コロナの流行次第によっては中止）
※10月以降の計画は、集まれていないため、後日メール等で相談して決めます。

この活動に興味のある方は、メール（上記メールアドレス）にてご連絡ください（^o^）/
当日、直接、実習室や現地へ来ていただいても結構です。



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

新型コロナウイルス感染症がまだ収束せず、緊急事態宣言が出たりして、集まっての活動を計画することが難しい状態です。そこで、集まらなくてもできる活動を、それぞれに進めています。その成果か、会員の論文が次々と仕上がってきています。順調にいけば、年末に発行される珪藻学会誌 Diatom 37 巻には、会員を主著者とする論文 3 本および共著者とする論文 1 本が掲載される見込みです。

2018 年に中国で新種記載されたばかりのクチビルケイソウのなかまが、この一年以内に西日本の互いに隔たった 3 河川からそれぞれ別の人によって発見され、影の会長のところに持ち込まれました。うち 2 名はたんさいぼうの会会員です。そこで私たちは 7 月になってからこの珪藻の研究を本格的に始め、9 月初めには早くも和文短報として Diatom に投稿し、そして何と、投稿から 2 週間で受理を頂きました。

大塚泰介・井上晴絵・洲澤多美枝・泉野央樹・西坂一成: *Cymbella distalebiseriata-liyangensis* 種複合体の日本からの出現
おそらくは外来種の急速な拡大に関する、まさに緊急報告です。今回の件では、研究仲間がいて、情報交換のネットワークができていることのご利益を、あたためて実感しました。

藤ヶ鳴湿原の珪藻の論文は、査読を受けて必要な修正も概ね終え、内容は概ねこれで良いと言われていますが、とある事情により受理はもう少し先になりそうです。次号ニュースレターでの報告にこうご期待。

【活動予定】

たんさいぼうの会第 68 回総会を、10 月中～下旬にオンラインで行います。現在、日程調整中です。「たんさいぼうの会」に新たに参加したいという方は、グループ代表アドレスまでご一報ください。

安心して集まって活動ができるようになるまで、個人研究や面会によらない共同研究を進めていきます。次は「たんさいぼうの小さな旅」で採集した瀬田公園の珪藻について、同定まで完了していますので、早期の原稿完成を目指します。他にも個人研究として、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、愛知県の鈹質土壌湿地群の珪藻植生研究、曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究、千種川(兵庫県)の珪藻植生研究などを進めていきます。

2021 年 11 月 27 日(土)にオンラインで行われる日本珪藻学会第 41 回研究集会で、会員が何人か発表する予定です。しかし具体的なことはまだ決まっています。また、「たんさいぼうの小さな旅」として、皆で福井県年縞博物館に行く計画を立てています。ただし、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることを条件にしているので、未だ日程などを決められずにいます。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

8月中旬の長雨で、稲穂が垂れはじめた田んぼが水浸しになっている姿には心痛むものがありました。9月に入ると、いつも通り稲刈りが進み、ホッとしています。来春にエビ達がまた元気に孵化してくれることを祈らずにはられません。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出に伴い、8月末に博物館で予定していた同定会は、取りやめざるを得ませんでした。コロナ禍の一日も早い終息を願うばかりです。

さて、5月16日(日)から23日(日)にかけてオンラインで実施されたはしかけ登録講座で、3名の方が新たに入会されました。入会手続きの完了が6月中旬になってしまったため、今年度の調査には参加いただけませんでしたが、水質や土壌、水生生物の飼育に詳しい方たちなので、今後の活動の大きな戦力になっていただけるものと期待しています。

【活動報告】

- ・6月17日 入会を希望された方に、Zoomを用いてオンラインでグループの活動を説明しました。
- ・8月12・13日 実施を取りやめることになった本年度サンプルの同定作業を、山川が1人でポチポチと実施しました。整理後のサンプル瓶は約100本になりました。同定後の調査票は、グループのサーバにアップロードしていますので、各自でご確認ください。
- ・8月29日 はじめての試みとして、Zoomによるオンラインミーティングを開催し、新入会員も含めて6名の参加がありました。上記同定作業の結果に基づき、山川より、本年度の調査結果を報告しました。また、カブトエビの卵の孵化実験に関する打合せも実施しました。
- ・8月31日・9月1日：孵化実験への参加を希望する会員に、2種のカブトエビの卵を配布しました。

【活動予定】

室内で25度前後の水温になると考えられる10月ごろに、各自でカブトエビの卵の孵化実験を行います。今回は、6月に実施した卵の収集方法が適切であったかを検証するのが主目的です。今回の結果を見ながら、来年以降、どのような方法で本格的な実験を行うかを詳細に検討したいと考えています。

10月23日開催予定の琵琶湖博物館開館25周年記念シンポジウムで、博物館を拠点としているグループの事例として、田んぼの生きもの調査グループの活動を報告する予定です。

コロナ禍が収まった時点で、新入会員にも対面で参加していただける会合を博物館で開催したいと考えています。実施の目途が立ちましたら、会員の皆さまにメールで連絡します。

(山川 栄樹)



(14) たんぽぽ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「たんぽぽ調査・西日本2020」終了>

「たんぽぽ調査はしかけ」は、「たんぽぽ調査・西日本2015」というたんぽぽの参加型広域調査に協力しながらたんぽぽについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、新型コロナウイルス対策により、「たんぽぽ調査・西日本2020」は2021年度まで延長になり、その調査も終了しました。現在最終的なデータまとめをしています。

【活動報告】

なし。

【活動予定】

広域調査に合わせたグループであることから、今後活動の整理を進めており、グループとしては一度解散することも検討中です。これまで活動に参加いただいた方々には、データ集計が終わりましたら改めて連絡します。



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保 実香

【活動報告】

8月の活動はお休みで、9月は緊急事態宣言で中止となりました。

※ちこあそは、生活実験工房周辺の展示空間の自然で活動しています。屋外活動ですので、感染のリスクは低いのですが、幼児がマスクをしたり、子ども同士の触れ合いを避けたりすることは難しいことを理解いただいて、大人は三密を避け、また社会的な理解を得ながら活動できるように実施しています。

WEBで、活動の様子を時々掲載しています。<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【今後の活動予定】 びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
10月	10月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	午前の部 10:00-12:00、午後の部 12:00-14:00 各回定員5組 予約制です。びわ博HPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。 コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。
11月	11月17日(水) 10:00-14:00	ちこあそ11月	ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■ 8月、9月は新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、観察会は行いませんでした。

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 安達克紀・由良嘉基

【活動報告】

秋の声が聞こえる美しい季節が到来しました。皆様にはその後、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

本年度のわくわく探検隊は、11月からの実施とさせていただきます。

申し訳ありませんが、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

お体にご留意されて、実り多い秋を満喫されますよう、お祈りいたします。



(18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松岡由子・中川信次

【活動報告】

■ 7月31日(日) 参加者: 6名

タヌキの解剖、オオバンの解剖、カルガモの解剖、シロハラの剥製の制作、を行いました。

シロハラの剥製の大きさの鳥だと、剥製づくりは皮剥ぎから始めて一日で仕上げるのペースで制作するのだと思います。

しかし、現在の活動時間の関係で、複数の活動日に分けて作業を行ったので、この日は剥製の皮の中に入れる中身作りを主に行いました。

初めての剥製づくりなので、資料を横に置き、一つ一つの工程を確かめながら注意深く行いましたが、どうしても資料だけだと、これで良いのか、何か間違っていないか、加減はどのくらいかなど、不安になります。

初めて取り組む事なのでこの経験は今後の活動の良い資料となってくれると信じて、完成に向け残りの作業も丁寧に行って行きたいと思います。

■ 8月8日(日)

活動を予定しておりましたが、博物館の休館に伴い中止となりました。

■ 8月21日(土)

活動を予定しておりましたが、博物館の休館に伴い中止となりました。

■ 8月28日(土)

活動を予定しておりましたが、博物館の休館に伴い中止となりました。

■ 9月19日(日)

活動を予定しておりましたが、博物館の休館に伴い中止となりました。

■ 9月26日(日)

活動を予定しておりましたが、博物館の休館に伴い中止となりました。

【活動予定】

・10月、11月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回2~3時間程度の活動を予定しております。



剥製の胴体の中に入れるものです。
上の図はシロハラの胴体の形をなぞったものです。



(19) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

8月は「草木染め」、9月は「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」、
「発酵食品の勉強会」の予定でしたが、緊急事態宣言により活動は中止になりました。

9月は発酵食品を学ぶ予定でした。年間の活動計画をたてた時、酒やパンを作るときにかかせない「酵母」は、自然界の植物のあらゆるものに生息しているという話で盛り上がり、その勉強会をしたいという話になりました。

しかし残念ながら、今回、メンバーが琵琶湖博物館に集まる事が出来なかったのですが、家で、今が旬のりんごから、酵母エキスを作る実験の様子や、酵母菌や、カビを顕微鏡で見た画像などを、緑のくすり箱のLINEグループにて交流しました。



りんごの皮から酵母液を作る実験

【活動予定】

・活動予定は、緊急事態宣言期間が終了次第、計画します。



りんごの野生酵母の
画像（顕微鏡）



カビの画像
（顕微鏡）



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋 克郎

【活動報告】

■引き続き滋賀県に緊急事態宣言が発令されている為活動は行いませんでしたが、「虫架け通信」を発行し会員同士の交流をはかりました。

LEBA 生架けグループ
虫架け通信 No.34

2022年7月18日発行
●巻頭
●巻末
●巻中

連絡
発行、巻頭の活動は予定通りです。近くは連絡はありません。

昆虫豆知識
今回の記事は自然史ミュージアム一帯の観察日記です。ベニモンは本県産種が稀な種であることから、貴重な種に自らも産卵するという生物の習性の一環です。チョウとわたりやすい卵がまだそのままの状態で残っています。

記録・短報
山本 7月14日に、高野寺池の池畔で観察した。観察場所は、一帯に芝生が茂り、池の周囲には木々が立ち並び、観察しやすい環境であった。観察時間は、午前10時から午後2時頃までであった。観察場所は、池の周囲にあり、観察しやすい環境であった。

最後に
今回の記事は、自然史ミュージアム一帯の観察日記です。観察場所は、一帯に芝生が茂り、池の周囲には木々が立ち並び、観察しやすい環境であった。観察時間は、午前10時から午後2時頃までであった。観察場所は、池の周囲にあり、観察しやすい環境であった。

LEBA 生架けグループ
虫架け通信 No.35

2022年7月18日発行
●巻頭
●巻末
●巻中

連絡
高野の7月25日に生架け活動として参加報告が行われました。例年通りであれば、みなさん参加を希望していることなのですが、コロナの影響で参加人数は少なそうです。参加人数は少なそうです。参加人数は少なそうです。

昆虫豆知識
今回の記事は、自然史ミュージアム一帯の観察日記です。観察場所は、一帯に芝生が茂り、池の周囲には木々が立ち並び、観察しやすい環境であった。観察時間は、午前10時から午後2時頃までであった。観察場所は、池の周囲にあり、観察しやすい環境であった。

記録・短報
山本 7月14日に、高野寺池の池畔で観察した。観察場所は、一帯に芝生が茂り、池の周囲には木々が立ち並び、観察しやすい環境であった。観察時間は、午前10時から午後2時頃までであった。観察場所は、池の周囲にあり、観察しやすい環境であった。

最後に
今回の記事は、自然史ミュージアム一帯の観察日記です。観察場所は、一帯に芝生が茂り、池の周囲には木々が立ち並び、観察しやすい環境であった。観察時間は、午前10時から午後2時頃までであった。観察場所は、池の周囲にあり、観察しやすい環境であった。

LEBA 生架けグループ
虫架け通信 No.36

2022年7月18日発行
●巻頭
●巻末
●巻中

連絡
高野の7月25日に生架け活動として参加報告が行われました。例年通りであれば、みなさん参加を希望していることなのですが、コロナの影響で参加人数は少なそうです。参加人数は少なそうです。参加人数は少なそうです。

昆虫豆知識
今回の記事は、自然史ミュージアム一帯の観察日記です。観察場所は、一帯に芝生が茂り、池の周囲には木々が立ち並び、観察しやすい環境であった。観察時間は、午前10時から午後2時頃までであった。観察場所は、池の周囲にあり、観察しやすい環境であった。

記録・短報
山本 7月14日に、高野寺池の池畔で観察した。観察場所は、一帯に芝生が茂り、池の周囲には木々が立ち並び、観察しやすい環境であった。観察時間は、午前10時から午後2時頃までであった。観察場所は、池の周囲にあり、観察しやすい環境であった。

最後に
今回の記事は、自然史ミュージアム一帯の観察日記です。観察場所は、一帯に芝生が茂り、池の周囲には木々が立ち並び、観察しやすい環境であった。観察時間は、午前10時から午後2時頃までであった。観察場所は、池の周囲にあり、観察しやすい環境であった。

【活動予定】

新型コロナウイルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。

昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。
※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責: 梶田)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■新型コロナウイルス感染症への対応で7月24日、8月11日、8月25日及び9月11日の活動は休止した。



クズの花

【今後の予定】

はしかけ事務局の方針と新型コロナウイルス感染症の状況を勘案して検討する。



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中井 克樹

【活動報告】

滋賀県では学校の夏休み期間中にまん延防止等重点措置が適用、さらに新学期開始の間近には緊急事態宣言が発令され、コロナ禍への対応が強化された2ヶ月でした。ここに来て感染者数等も減少傾向にありますので、いろいろと配慮しながら活動が進むことを期待しています

【活動予定】

科学部のメンバーをはじめとする高校生がグループの主な構成員であり、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために配慮をしながら、それぞれの学校での活動を進めている状況です。博物館としては、各学校での対応に従いながら、質問や調べものがあればメールなどで気軽に博物館を使ってくれればと考えています。



SALON DE 湖流
LAKA MIAO SALONARY

(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

【活動報告】

■ 8月14日(土)20:00~21:00 ギャラリー展示に向けての検討会

場所: オンライン開催(Zoom)

参加者: 2名 (はしかけ1名 学芸員1名)

「琵琶湖の津波」を題材として、津波が「一方的に押し寄せる波」であることが伝わりにくいという問題を解決するには、サーフィンができる波のような「波の山の向こう側」が無いというイメージが伝わるということが重要ではないかという議論になりました。

また、「流れ」という物質としての実体が無いものを「主役」とするストーリーを展開せねばならないというところから、そのような対象に感情移入してもらうための「キャラクタ化」についての議論が展開しました。

■ 9月18日(土)ごろ ギャラリー展示に向けての検討会

参加者: 3名 (はしかけ2名 学芸員1名)

対面でもオンラインでも参集できるメドが立たなかったため、担当学芸員が「虹」の形状についてのイメージ(立体感覚)が伝わるような案をメーリングリスト上で示して意見を求めましたが、特に議論にはなっていません。

【活動予定】

原則として毎月第二土曜の午後に会合を持つ方針は従来通りですが、オンラインでの開催も積極的に進めて行こうと考えています。



(24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-mizu-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 楊 平

【活動報告】

■ 7月22日(木) 9:30-12:00 参加者 6名

①活動場所: 野洲市

②調査目的:

天候によっては溢れる水に苦労された旧野洲川流域に隣接しながらも、常に水不足で困っていた野洲の永原、北村、中北、北という地域。その水不足解消策として、約 800 年前に造られたという祇王井川の今の姿を数回に分けて現地確認する。

③調査要旨:

今回は一回目として、現在の祇王井川の分水地点である野洲川の石部頭首工の付近から野洲小学校付近までの上流部を車と徒歩で半日かけて調査した。約 800 年前に祇王が平清盛に頼んで造ってもらったという伝説話は別の機会としてここでは、確認できた現在の祇王井川の姿を忠実に辿る。

1) 石部頭首工からの分水から野洲小学校付近まで

野洲川右岸 石部頭首工管理事務所の裏から導水管で右岸の堤防下に分水され、右岸流量調節 ゲート機器操作盤が設置されている所で三面張りの流路が地上に顔を出している。ここが現在の祇王井川の原点となっている。10m 程度下流で左の主流(祇王井川の流れ)と右の支流に分岐されしばらくは並行して流れる。右の支流は南桜地域農業用水のようである。祇王井川は三面張り流路を、しばらくは右岸堤防下を並行して水深 10~ 20cm 程度で結構な流速で流れ、近江富士団地付近で徐々に野洲川堤防から離れる。



□石部頭首工案内板



□石部頭首工下流域からの全景



□右岸流量調整ゲート(現祇王川原点)

2) ㈱ ヒラカワの工場敷地から国道 8 号線をトンネルで越え中国塗料(株)工場敷地内ライトケミカル(株) の工場敷地脇を流れ、天保義民土川平兵衛の墓付近で県道 504 号ぐり、大畑の GS の裏でほぼ直角に右折、行畑地区へ流れている。ここまでも含めこの先の野洲小学校付近までも淀みのないきれいな流れで、空き缶やゴミなどがほとんどなくきれいに管理された人工河川である。途中で三上地区の七間場自治会館(新興住宅団地)の横に「祇王井川水源跡」の石碑が建っている。古くはこの地が祇王井川の取水地点であったとして水源跡の石碑が立てられているとのこと。



□近江富士団地横流路



□天保義民墓標脇流路



□七間場自治会館横旧水源跡碑

3) 途中で他地区への農業用水路と分岐しながらも行事神社の参道に沿って北上する。ここへ来ると三面張りの流路も住宅側は石垣積みになっており、石鳥居の横には お地蔵さんが祀られ、昔の「カワト」も残っている。この辺りの旧家は中山道側が表玄関で 高い等を営む奥行の深い敷地で裏が祇王井川に面している家屋が多かった。今は、無人の家屋も散見される。庭には大きな松の木や棕櫚も残っている。行事神社の森の裏側に旧中山道と朝鮮人街道の分岐点があり、祇王井川は野洲小学校校庭沿いを朝鮮人街道に沿って流れる。



□行事神社参道入口の地蔵



□カワト跡



□中山道と朝鮮人街道の分岐点

■ 8月4日(水) 9:00-12:00 参加者 6名

①活動場所: 野洲市

②調査目的:

祇王井川調査の 2 回目。田畑への灌漑用水を実際に必要とした祇王井川の中流域である永原御殿跡から永原、北、中北、永原上町、下町地域を現地調査する。祇王井川が用水路として完成した当時は、永原、北、中北、富波の約 1820 反を潤したといわれる。また同用水路は野洲米を運ぶ運河の機能も果たしていた。天候によっては溢れる水に苦勞していた旧野洲川流域に隣接しながらも、常に水不足で困っていた野洲の永原、北村、中北、北という地域。その水不足解消策として、約 800 年前に造られたという祇王井川の今の姿を数回に分けて現地確認する。

③調査要旨:

今回は野洲観光ガイド協会の川端安子氏に案内をお願いして、東祇王井川の流れと 永原地区にある国指定遺跡の永原御殿跡周辺に点在する遺跡を半日掛けて巡った。

1) 東祇王井川(旧家棟川付近から永原下町集落付近の流れ)

生和神社(野洲市富波乙)の森の裏で祇王井川は東祇王井川と西祇王井川に分流する。今回は東祇王井川の流れる先を屋棟神社(やなむね神社 野洲市永原)から永原下町の集落付近で調査した。旧朝鮮人街道の南側に沿って流れてきた東祇王井川は永原地区の屋棟神社の手前で旧家棟川(やなむねがわ)と クロスして川底を横断していた。現在この付近の旧家棟川は道路と住宅街に変貌しているが、当時の天井川の土手跡が朝鮮人街道脇に一部、残っており、道路沿いからも確認することができる。今も旧家棟川跡の道路下をトンネルで潜り抜けた東祇王井川の流れは屋棟神社の参道の鳥居横に顔を出し参道を横切った後、直ぐに左折して又旧朝鮮人街道沿いの側溝として流れている。永原下町の集落の中で街道を横断した後、集落の裏沿い(西側)を北上し新家棟川に合流する。祇王井川を辿って気付くことは、一部市街地を流れる箇所があるにも関わらず、流域全体が非常にきれいに管理されており、空き缶、ペットボトル、ごみの漂着がほとんど見受けられない。流域を管理されている皆さんの日常の努力を伺うことができる。



□屋棟神社参道脇に顔を出した東祇王川



□屋棟神社参道沿いの流路



□永原下町挑戦街道沿い民家横流路

2) 田畑の中に残る灌漑用井戸水汲み上げ ポンプ

この地区には所々に残る昔の井戸水汲み上げ ポンプがほぼ使える状態に残っていた。灌漑用水を祇王井川の水に頼りながらも、井戸を掘れば地下水が不足ながらも使っていた様子が伺える。妓王寺でガイドをお願いした地区の住民の方も飲料水は水道開通までは各家で井戸水に頼っていたとのこと。その水は金気が強かったがそのまま使用していたとのこと。



□井戸水汲み上げ用ポンプ 1



□永原御殿跡ガイド版



□土安神社(てやす)

3) 永原御殿跡と土安(てやす)神社(野洲市永原)

徳川家康らの宿泊施設であった永原御殿は令和元年に国指定史跡となり発掘作業が続いている。家康が6回、秀忠が4回、家光が2回宿泊したと伝えられ、代官や街道の村々が対応したとのことである。のちの將軍の御殿利用が途絶え宝永2年(1705)に建物が焼却され、跡地は永原村の御殿守が管理してきた。周辺は今も旧来からの集落や田畑が広がっている。直ぐ北隣に鎮座する土安神社は平安の昔、菅原神社の御旅所として創建され、祭神に祇王井川開拓の神童子命と開拓工事奉行の瀬尾兼康の2神が奉祭されている。裏にあった池は祇王井川とつながり常に水位の状況が確認できたとのことである。社殿内には童子と弓が祀られているが、弓は工事の時の標準尺で水深と川幅を測定するのに用いたものと伝えられている。

4) 妓王寺と伝妓王屋敷跡(野洲市中北 北村)

野洲郡江辺莊(えべのしょう)に生まれ、保元の乱で父を亡くした後、母と共に京都へ出て白拍子になり、平清盛に寵愛された妓王が故郷の村人が水不足に苦しんでいたのを思い、用水工事を清盛に願い出た。この用水が祇王井川である。その後、清盛の寵愛が佛御前に心変わりし、妓王は失意の中で母、妹と共に出家、京都嵯峨野の祇王寺に入寺し38歳で世を去った。没後に恩恵を称えて故郷の地に建立された寺を祇王寺と名付け、村人に守られて来た。現在は浄土宗知恩院の末寺の尼寺で本堂阿彌陀如来坐像の両脇庫に妓王・妓女(妹)・刀自(母)・佛御前の木造が安置されている。本堂前の庭には供養塔も建つ。妓王寺から北へわずかに離れた場所に伝妓王屋敷跡が残る。



□妓王の里案内図



□祇王寺山門



□祇王寺本堂阿彌陀如来像と脇庫

5) 北村季吟句碑 浄専寺の永原御殿御門(野洲市北)

北の集落中央に北村季吟の顕彰碑がある。季吟は寛永元年(1624)にこの地で生まれ、江戸時代初期に俳人・歌人・国文学者として活躍し、松尾芭蕉も季吟に指導を仰いだ。5代將軍綱吉に歌学方として仕え、没後250年の昭和30年(1955)に句碑が建立された。

「祇王井にとけてや民も やすこほり」季吟 句意「妓王のおかげで野洲の人たちは安らかに過ごすことができる」

「こほり」は「氷」と野洲郡の「郡」の意をかけている。祇王井にとけこむように慣れ親しんでいる人々のことが想いおこされる。季吟句碑すぐ近くの浄専寺（浄土真宗本願寺派）に永原御殿の御門と石垣の一部が移築され現存している。御門は長い年月の経過で老化が激しく、数本のつかえ棒で支えられているものの、わずかの衝撃で今にも倒壊しそうな状況である。御門で ありながら、立ち入らないように柵止めされていた。



□北村季吟の句碑



□浄専寺に移築された永原御殿御門

④想いとして一言

800年ほど前に作られた人工的な土木建造物である祇王井川、作られた経緯もさることながら、現在でもその面影を感じさせる、この雰囲気は何なのか？綿々と続く人の営み、そこに住む人々、知れば知るほど人の連鎖を感じてやまない。

:参考資料 野洲市教育委員会編「永原御殿」ブックレット 2020
野洲市歴史民俗博物館「平家物語と妓王」パンフレット 2021

【活動予定】

・10月1日(金)野洲川歴史資料館 郷土史展 ・10月7日(木)野洲川水系調査予定(祇王井川流路周辺)

(本稿の執筆者:小篠)



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

活動日時 令和3年7月16日(金) 9時30分~11時30分

天候:曇りのち晴れ 気温:29℃ 参加者:7名

観察状況

早朝の雨がやみ対岸の山々の遠近の色合いが鮮やか。波は少し荒く水位も高目。作業開始時は曇っていたが終了時には晴れて暑くなった。今日は久しぶりにフルメンバーの作業日となった。

巣の引っ越しをしているのか、卵等を運ぶアリの行列が其処ここに見られた。

特定の場所にチガヤに共生(?)するキノコがたくさん生えていた。

大槻学芸員のコメント:イネ科につくので、シバフタケの仲間とは思いますが、まだ分かりません。

砂地では水分の確保が重要です。菌類が付着することで、リンと水分を確保しやすくなるようです。このキノコは植物体へ寄生しているかもしれませんね。

オニグルミの木に実がなっていた。

大槻学芸員のコメント:琵琶湖岸にはよく流れ着きます。発芽して実ができるまでに成長したのでしょうか。



チガヤにキノコ



オニグルミの実

活動内容

1. 保護区及び浜の除草作業 (コマツヨイグサ・カワラヨモギ・オオフトタバムラム・チガヤ等)
2. アメリカネナシカズラの駆除 (2 地帯) 今回、ホームグラウンドのハマゴウ地帯と一番西側(竹が目印)には見つからなかった。しかし、6 日に駆除したはずの場所には広がっていた。

海浜植物

- ①ハマエンドウ:葉が枯れ地面が目立つ。半面、東の方面に新しい株が広がっている。新葉が大きくなってきた株も見られる。
- ②ハマゴウ:浜いっぱい広がりは全体的にふくらんでいる。花は、三部咲きぐらい。
- ③ハマヒルガオ:雨の影響か、浜では葉が広がるが、花は見当たらない。西の浜では幾つか花も見られた。



①



②



③

活動日時 令和3年8月31日(火) 9時30分~10時50分

天候:晴れ 気温:29°C 参加者:2名

観察状況

少しずつ秋の気配が近づく8月最終日。伊吹山がくっきりと見えきれい。水は少し濁り波もある。水位は思ったより低い。緊急事態宣言中ではあるが、ネナシカズラが心配なので許可を得て車は新海浜の公民館に駐車し、新海浜に来た。心配していた通りいつもの3カ所に花と虫こぶをたくさんつけ広がっていた。

活動内容

- ①アメリカネナシカズラの駆除 (1カ所) 用意していた袋が足りなくなったので3カ所のうち1カ所のみ(3m×70cm)駆除。

海浜植物

- ①ハマエンドウ:枯れ葉はなく、新葉が大きくなりツルも見られ生き生きしている。保護区の南の入り口付近に広がっているが センダンの木の中央一面には株は少ない。
- ②ハマゴウ:今年は全開のハマゴウは見られなかった。全体的に花は終わり種をつけている。葉も枯れ始めたがところどころ花とつぼみも見られた。
- ③ハマヒルガオ:お盆前後の大雨で浜が洗われ、浜欠際には根がむき出しになっている。しかし、むき出しになった根から青葉が出て踏ん張っている。



①





②



③



【活動予定】

次回活動日 未定（緊急宣言解除後）

以上

3. 生活実験工房からのお知らせ

緊急事態宣言の影響を受け、9月の稲刈り体験イベントは中止となりました。そのため、展示交流員さんや交流系のメンバーで稲刈り、ハサ掛けの作業を行いました。幸い天候にも恵まれ、無事作業を終えることができました。

稲刈りから10日後には脱穀作業を行いました。こちらも手作業で、展示交流員さんや交流系のメンバーで力を合わせて行い、無事作業を終えることができました。

次回10月の稲刈り体験イベントは中止にならないことを願っております。今後もしっかり感染症対策を行いながら、質の高いイベントを提供できるよう努力して参ります。



9/13 稲刈り作業

【活動予定】

- 10月 3日(日) 稲刈り、ハサ掛け(晩稲品種) (注)受付終了
- 11月 21日(日) 秋の生き物を探そう
- 12月 19日(日) しめ縄づくり
- 2月 6日(日) わら細工

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～)

場所：生活実験工房

担当:交流係



9/13 ハサ掛け

4. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス(各グループの報告欄に掲載)にご連絡ください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限ります。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。